



environmental
report



ap bank fes'10
environmental report
環境報告書

ap bank fes'10

2010年7月17日(土)、18日(日)、19日(月・祝)
eco-reso+(plus)前夜祭 7月16日(金)
ヤマハリゾートつま恋(静岡県掛川市)

主催: ap bank
企画・制作: ap bank/OORONG-SHA

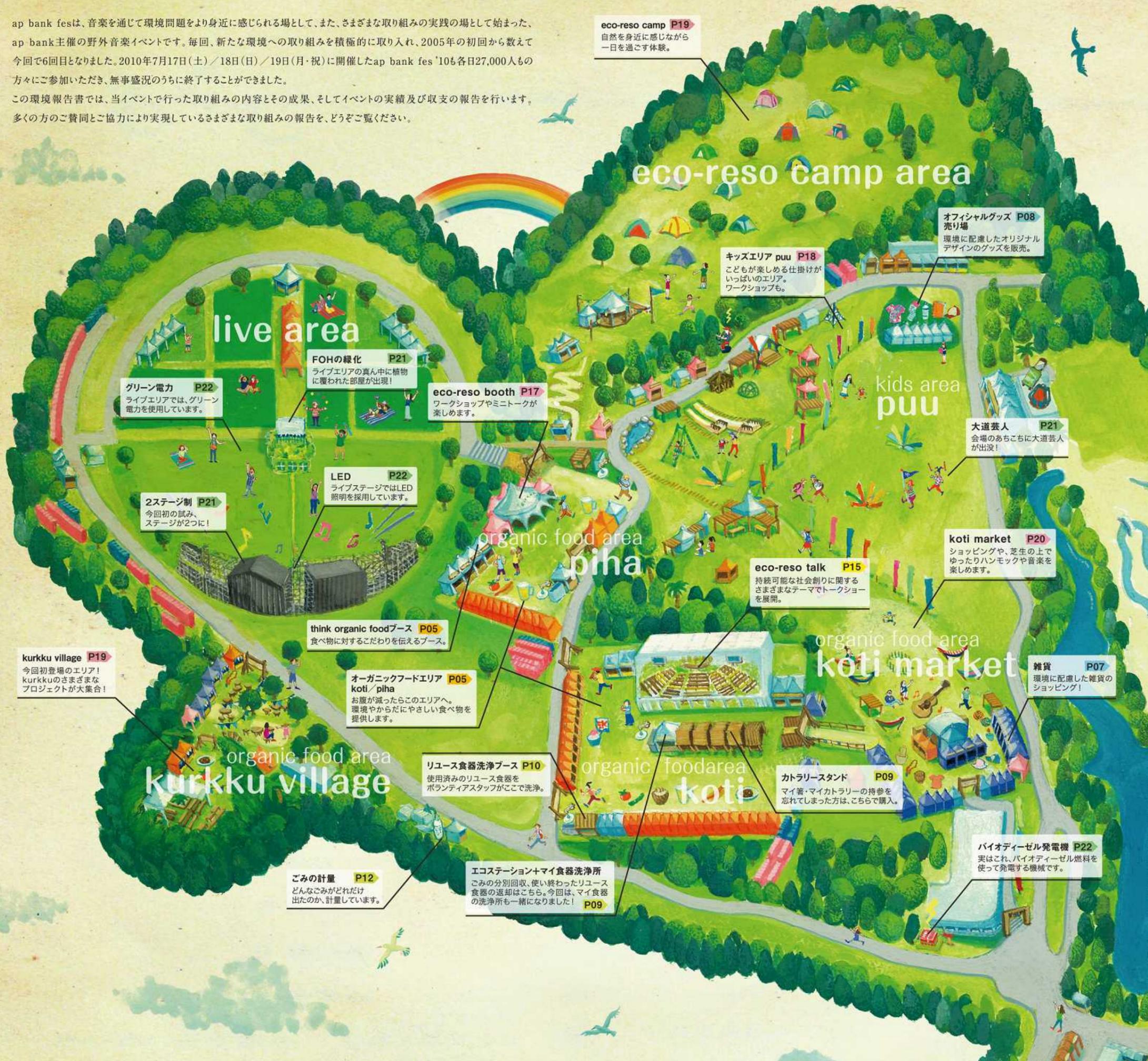
www.eco-reso.jp/fes10/
www.apbank.jp

©2010 ap bank Co. Ltd., All Right Reserved



ap bank fesは、音楽を通じて環境問題をより身近に感じられる場として、また、さまざまな取り組みの実践の場として始まった、ap bank主催の野外音楽イベントです。毎回、新たな環境への取り組みを積極的に取り入れ、2005年の初回から数えて今回で6回目となりました。2010年7月17日(土)／18日(日)／19日(月・祝)に開催したap bank fes '10も毎日27,000人もの方々にご参加いただき、無事盛況のうちに終了することができました。

この環境報告書では、当イベントで行った取り組みの内容とその成果、そしてイベントの実績及び収支の報告を行います。多くの方のご賛同とご協力により実現しているさまざまな取り組みの報告を、どうぞご覧ください。



eco-reso camp P19
自然を身近に感じながら一日を過ごす体験。

eco-reso camp area

オフィシャルグッズ P08
売り場
環境に配慮したオリジナルデザインのグッズを販売。

キッズエリア puu P18
子どもが楽しめる仕掛けがいっぱいのエリア。ワークショップも。

kids area puu

大道芸人 P21
会場のあちこちに大道芸人が出没!

live area

FOHの緑化 P21
ライブエリアの真ん中に植物に覆われた部屋が出現!

グリーン電力 P22
ライブエリアでは、グリーン電力を使用しています。

eco-reso booth P17
ワークショップやミニトークが楽しめます。

LED P22
ライブステージではLED照明を採用しています。

2ステージ制 P21
今回初の試み、ステージが2つに!

organic food area piha

eco-reso talk P15
持続可能な社会創りに関するさまざまなテーマでトークショーを展開。

koti market P20
ショッピングや、芝生の上でゆったりハンモックや音楽を楽しめます。

organic food area koti market

雑貨 P07
環境に配慮した雑貨のショッピング!

think organic foodブース P05
食べ物に対するこだわりを伝えるブース。

オーガニックフードエリア koti/piha P05
お腹が減ったらこのエリアへ。環境やからだにやさしい食べ物を提供します。

kurkku village P19
今回初登場のエリア! kurkkuのさまざまなプロジェクトが大集合!

organic food area kurkku village

リユース食器洗浄ブース P10
使用済みのリユース食器をボランティアスタッフがここで洗浄。

organic food area koti

カトラリースタンド P09
マイ箸・マイカトラリーの持参を忘れてしまった方は、こちらで購入。

ごみの計量 P12
どんなごみがどれだけ出たのか、計量しています。

エコステーション+マイ食器洗浄所 P09
ごみの分別回収、使い終わったリユース食器の返却はこちら。今回は、マイ食器の洗浄所も一緒になりました!

バイオディーゼル発電機 P22
実はこれ、バイオディーゼル燃料を使って発電する機械です。

目次

- 03 はじめに
- 04 ap bankとは/ap bank fesとは
- 05 食べること オーガニックフードの取り組み
- 07 買うこと 雑貨～選んで買うこと～
- 08 買うこと オフィシャルグッズ
- 09 ごみのごと マイ箸・マイカトラリー、マイ食器/リユース食器
- 11 ごみのごと ごみの分別とそのゆくえ
- 13 ごみのごと ごみのゆくえレポート
- 15 知ること eco-reso talk
- 17 楽しんで学ぶこと ワークショップ/キッズエリア puu
- 19 楽しんで学ぶこと eco-reso camp/kurkku village
- 20 楽しんで学ぶこと koti market/eco-reso+(plus)/after party
- 21 イベントの仕組み 2ステージ制/FOH緑化/大道芸人
- 22 イベントの仕組み エネルギー
- 23 お金のごと 収支報告
- 24 公演実施概要
- 25 おわりに



はじめに

ここ数年、日本の景気が低迷が続いていることもあって、暗いムードはたしかにありました。本当はここで「今年は明るくなったね」と言いたいところだけどその逆で、もう日本にいる人が、このままでいくとヤバイことになるという感覚を隠せなくなった、初めての年だったというように僕は、2010年という年を記憶するでしょう。

そんな中で、ap bank fesの6年目は、先達の残した名曲などを掘り起こして繋いでいくという流れから、若い新しいアーティストに繋いでいくというシフトを強化するようなフェスになり、その試みの一つとして2ステージ制を導入するという年でもありました。

来年のことはまだまだわからないこともありますが、音楽が、より感情を響かせるものであり、「歌っている」という本質的な部分を大切にしたいと改めて思っています。

生き物としての喜びは、生をうけたもの同士の循環なくしてはあり得ないと思うし、その本質的なものに近づくためにap bankは農業の方向に、今年、力を注いできました。

来年以降もその流れは続けていくし、楽しみながら、ワクワク、ドキドキしながらいろんなアウトプットを通して、時にはインプットの現場にも立ち合ってもらいつつ、みなさんと、また一年成長していきたいと願っています。

2010年12月

一般社団法人APバンク 代表理事 小林武史

ap bankとは

ap bankは、環境プロジェクトなどへの融資をはじめ、持続可能な社会を創るためのさまざまな活動を行う非営利組織です。

音楽プロデューサー小林武史とMr.Childrenの櫻井和寿に、坂本龍一氏を加えた3名が拠出した資金をもとに、2003年に設立されました。ap bankの「ap」は、「Artists' Power」のAP、そして「Alternative Power」のAPでもあります。

市民やNPO団体、法人による環境などに関するさまざまなプロジェクトへの融資事業をはじめ、「eco-reso(エコレゾ、eco-resonanceの略)=無理なくポジティブなエコ意識を共振させていこう」という思いのもと、いろいろな活動を行ってきました。

「快適で環境にもよい未来に向けた暮らし」を実践する場、「kurkku(クルック)」のコンセプトプロデュースや、ap bank基金を通じた自然災害被災地への義援金寄付などの復興支援事業もそのひとつです。

また、音楽を通じて環境への意識を共振、実感する場として「ap bank fes」などの音楽イベントを開催しています。これらap bankが主催するイベントの収益は、ap bankの活動資金、融資原資、環境をはじめとするさまざまなプロジェクトの支援や推進のための資金となります。

さらに、2009年には、融資という形でのプロジェクト支援事業をふまえ、さまざまなプロジェクトに「出資」や「投資」を行い、主体的に事業を展開していく「明日(あす)ラボ」というセクションをつくりました。その一環として設立したのが、千葉県「耕す 木更津農場」です。そこでは「食」や「農」をとおして命の繋がりを感ずることができる、循環型農業のモデルづくりに挑戦しています。

これからも、ap bankはさらに活動の幅を広げ、深めていきます。

www.apbank.jp

ap bank fesとは

ap bank fesは、音楽を気持ちのよい場所で楽しみながら、環境問題をより身近に、より前向きに考えることができる場として、また、さまざまな取り組みの実践の場として始まりました。

ライブステージでは、小林武史と櫻井和寿を中心に結成されたハウスバンド「Bank Band」とゲストミュージシャンの競演、オーガニックフードエリアでは、環境にも体にもやさしい食事や環境に配慮した商品の販売、環境にまつわるさまざまなテーマで繰り広げるトークショーやワークショップなどを来場者に楽しんでいただきながら、「eco-reso」を感じていただける空間づくりを心がけています。

また、環境負荷の少ないイベント創りを目指し、自然エネルギーや代替燃料を部分的に導入するほか、ごみの削減とともに再利用を促進する分別回収を徹底して行うなど、さまざまな環境への取り組みを積極的に取り入れ、実践してきました。

6回目となったap bank fes '10では、過去5年間のさまざまな取り組みをさらに深く掘り下げました。

来場者にとってより分かりやすく、より実践のしやすい仕組みになるよう改善を加え、会場で体験していただきました。

なお、このイベントの収益は、ap bankの活動資金、融資原資、環境をはじめとするさまざまなプロジェクトの支援や推進のための資金となります。

www.eco-reso.jp/fes10/

>>過去の動員実績

ap bank fes '05	6万人
ap bank fes '06	7万5000人
ap bank fes '07	2万7000人(台風のため1日のみの開催)
ap bank fes '08	8万1000人
ap bank fes '09	8万4000人
ap bank fes '10	8万1000人



オーガニックフードの取り組み

ap bank fesでは、フードエリアを「オーガニックフードエリア」と呼びます。これは、初回から一貫して、全ての飲食店がオーガニックを意識し、こだわりの食事を提供しているためです。ap bank fesで言う「オーガニック」に厳密な定義はありません。もちろん、すべて認証のつくオーガニックの食材を使えば明確で安心ですが、生産や供給の裏にはさまざまな事情があります。認証は取っていない人も昔から有機栽培をしている人もいます。有機栽培に移行中の人もいます。理由があってやむを得ず農薬を使わなければならない人もいます。真夏の野外での出店という過酷な状況も考慮して食材を選ぶことも大切です。そうしたなかで、できるだけ自然に負荷をかけない形に近づける努力をしているかどうか。認証だけにとらわれることなく、そういったところを重視しています。このような食べ物は、食べておいしく、環境にもからだにも良いのです。来場者には食べることで実感し、普段の生活に戻った時にもそういったことを思い出して、意識していただければと思っています。無理をしなくて環境に負荷をかけるのではなく、もともと自然が持っている循環システムを活かした食べ物をつくり消費できる世の中へ、少しずつでもシフトしていけることを願っています。



フードアイコン 食良くん

「オーガニック」「体にやさしい食べ物」という言葉だけでは何がどういのかと疑問に思うこともあると思います。もちろん、ひと言では伝えられない程、出店者の取り組みは多様です。食材のこだわり、お店で行っている環境対策など、どの店舗がどのような取り組みをしているのかを分かりやすく伝える為に、「食良くん」という独自のアイコンを最後尾看板に提示しています。16種類ある食良くんアイコンは、出店者からの申請に対して事務局が審査を行い、審査がとおったもののみを掲載することができます。さまざまな取り組みを行っている店舗にはたくさんの食良くんが並び、ひとつのことに深く取り組んでいる店舗には、数が少なくても食良くんを大きく表示しています。これによって、来場者には、それぞれの出店者の思いや取り組みを知っていただくことができました。

【菜】 野菜中心のメニューです。	【無農薬】 栽培期間中農薬化学肥料不使用 主に生産物について、生産の過程で一切の農薬・化学肥料を使用せずに栽培された食材を使っています(※)。	【追跡】 使われている加工品の製造の過程も全て後から調べることが出来ます。	【旬】 旬の食材を使っています。	【履歴】 主に生産物について、「栽培履歴」がきちんと記録された食材を使っています。	【オリジナル】 このアイコンは、それぞれのお店の人が自らの店の特徴やこだわりを書き込んだ、オリジナルのアイコンです。	【調査】 定期的な、仕入れた食材に対して「残留農薬分析」という厳しいチェックを実施しているお店です。	【有機】 有機質や生命エネルギーの循環に配慮して地力を高め、自然環境に調和した方法で生産物を栽培する有機農法で作られた材料を使っています(※)。
【顔が】 生産者がはっきりわかる食材を使っています(※)。	【調味】 国産の原料、天然の原料で作られた調味料を使っています。	【普般】 ap bank fes以外でも、普段からオーガニックフードをはじめ、安心・安全にこだわった食事を提供しているお店です。	【国産】 日本国内産の食材で作られています(※)。	【配慮】 食料残さを堆肥に利用したり、自然エネルギーを活用するなど、飲食店の環境問題への取り組みに積極的に取り組んでいるお店です。	【とりのみ年齢】 このお店がオーガニックフードや安心・安全な食事を提供・環境問題にとりくんできた年数を表示しています。	【公平】 フェアトレード品を提供しているお店です。	【減農薬】 栽培期間中農薬5割減、化学肥料5割減 必要最低限の(当該地域の慣行栽培の半分以下の)農薬・化学肥料を使って育てられた食材を使っています(※)。

※一部調味料の原料は含まれません。

最後尾看板

オーガニックフードエリアが賑わう時間帯でも、来場者が購買列を迷わないよう、最後尾看板を取り入れています。各店舗のお勧めメニューやこだわり、取り組みなどを知っていただけるよう、最後尾看板に食良くんを掲載することで、お店選びもスムーズになりました。この最後尾看板は、後ろに並んだ人に手渡して回っていく仕組みとし、来場者同士のコミュニケーションが生まれるきっかけにもなりました。



シンクオーガニックフード think organic food

オーガニックフードエリアpihaには、ap bank fesでの取り組みを紹介するオフィシャルブースが並びます。今回は、新たに食良くんやオーガニックフードに関する展示ブース「think organic food」を設置しました。全16種類のなから自分のタイプに合った食良くんを見つけれられる食良くん古い、顔パネルなどのお楽しみコンテンツや、出店者が申請の際に使う食良くんアイコンの詳しい基準といった運営上の仕組みの公開、また、各飲食店のお勧めメニュー写真とその店舗についての食良くん一覧など、オーガニックフードの取り組みについて理解を深めていただくブースになりました。



vege-reso project

ap bank fes '09からのテーマのひとつである「農」。イベント当日だけで表現するには表面的になってしまうこのテーマを取り入れるにあたり、たくさんの参加者が数ヶ月前から土に触れ野菜を育てるという行為を通じて「農」を実感し、生活にちょっとした彩りを加えることができれば、また、イベント自体もより長く、より濃厚に楽しんでいただけたら、という思いからvege-reso projectはスタートしました。30人規模で行った前回のミニトマトプロジェクトから大きく拡大し、一般の方、アーティストやスタッフ、経験者未経験者など、バックグラウンドも様々な約1,000人の参加者がそれぞれのオフィスや自宅で5種類の夏野菜を栽培しました。参加者の一部によるブログ形式の栽培日記(※)や、誰でも参加出来るTwitterを使った情報交換などを通じて、全国の仲間と一緒に育てていく感覚で、野菜の成長と共にイベント当日が近づくのを楽しみことができました。夏を終えてみて、たくさん収穫できた人や、実らずに終わってしまった人がいたり、結果はさまざまですが、野菜作りの難しさや面白さを体験していただくことができました。

※http://www.eco-reso.jp/vege-reso/



飲食店一覧(全48店舗)

ap bank fesの飲食店は、生産者、流通に関わる人、ケータリング業者や飲食店経営者など、食に関わるさまざまな形態の方が出店しているのが特徴で、それぞれの業種の個性を活かしたメニューを提供しています。ここではthink organic foodブースでみられた各店舗の食良くん代表メニューをご紹介します。

Koti	さんさんファーム 黒豚野菜フランク	POLE☆POLE オリジナルタコス	CANTIK オーガニック完熟マンゴーのかき氷	YAFFA ORGANIC CAFE 有機野菜たっぷりお好み焼き	博多白天 純国産博多豚骨ラーメン
	オーガニックフード PUEN 茅ヶ崎 油で炒めない超ヘルシーパスタ焼きそば	ワイン居酒屋 赤坂あじろ亭 名人岸さんの豚で作ったスパイシブーク丼	庶務移動カフェ Cafe Pitwu トルティーヤプレート お野菜満ち	創作調味 ぶっかけうどん ぶっかけうどん しょうゆ味	KIU とうもろこしと季節野菜のかき揚げ冷やし茶漬け
	すいーとまむ たっぷりサラダピタ チキン	緑と風のダーシェンカ 天然酵母の石釜パン	キミドリ 梅しそ豚バラごはん	有機茶の 善光園 有機冷茶	Vegekitchen 五穀米の海南鶏飯
	PRIMAL ハワイアンロコモコ	スパイラルドリフターカフェ オーガニックレープブルーベリーバナナ	フォレストファーム 恵里 ブレノワール(鶏)のステーキ丼	菜食健美 精進キーマカレー	FOODUARY 鶏肉の回鍋肉丼
	エチオピアレストラン クイーンシーバ 有機野菜たっぷりクスクス	Taco Deriel! アボカドタコライス	井原 上々 担々麺 担々ラーメン	NPO法人 メダカのがっこう 三種のスパイシー地豆カレー	ボラン広場東京 冷し有機トマト
	羅王温泉 音茶屋 山形名物 冷たいにくそば	Cafe Obscura シャリシャリアイスレモネード	ハム屋のTacos ゴーバル Wチーズ ベーコンタコス	REBIRTH PROJECT モヒート	ナチュラルフード 夢は正夢 肉味噌担々冷汁茶漬け
	インド料理 マハッタ ゆずゆずカレー ナンorライス	オルガン 炭火焼 鶏のまぶし丼	麦とろ人 うなとろ	ごはん屋 米米 和菜プレート	アツい農家の ひんやり元気野菜100% こだわり高糖度ミニトマト
	from ベージュ・ベーコンエッグサンド	Spice Cafe Bija 地球を救う野菜カレー	農業生産法人(有)えこふあーむ 放牧豚のソーセージとホットドッグ	わいわいファーマーズ いなりと夏野菜の盛り合せ	メルシー商店 ソノ粉のガレット
Koti market	梅おばさん 豚肉入り 梅ドリア	野菜ムエのスープ屋さん kurumi たっぷり夏野菜のトマトスープバスタ	つぶつぶカフェ 蒸きびとフレッシュトマトの漬物タコライス	らでいっしゅぼーや 夏野菜盛り	みるく工房四季 自然放牧みるくジェラート
kurkku village	mother kurkku 特製肉味噌ごはん	kurkku 3 ジャージャー麺	kurkku kitchen 短角牛と肝付豚のキーマカレー		



雑貨～選んで買うこと～

ap bank fesの会場に並ぶ雑貨店が取り扱う製品は、ひとや環境に優しい素材・製造工程のものばかり。普段買物の際にその製品の成り立ちにまで気をつかうことはなかなか難しいですが、ap bank fesでは、出店者とのコミュニケーションを通じて、その「もの」が持つストーリーを詳しく知ることができます。このような商品が多くの人に浸透・流通するにはまだまだ時間がかかりそうですが、こうした商品を選んで買うことで、生産者やその活動を応援することにも繋がります。このような知識が、ものを選ぶひとつの基準として、普段の買い物においても広まって行くことを願っています。

雑貨店一覧 (全29店舗)

出店エリア	店名	取り扱い製品例
koti market	HIMALAYAN MATERIAL	ネパール特産の天然素材ヒマラヤンヘンプ製品
	Renature	ヘンプやオーガニックコットン素材のTシャツ
	Lopeha	絹製品やオーガニックコットン製品
	Sipilica	ナチュラルテイストのハンドメイドアクセサリー
	ubdy	手作りの木製マイディッシュ・マイカトラリーセットなど
	Botanic Green	緑葉染製品、身につけると緑の香りが漂います
	帽子専門店 SIGN	オーガニックコットンや古着を使用したオリジナル帽子
	てのひらワークス	靴づくりから出る革の端切れをつかった製品
	(株)ウインドファーム	有機栽培コーヒー・紅茶、厳選素材のお菓子
	ポディクレイ	保湿と洗浄、ねんどのスキンケア製品
	オーガニックコットンのメイド・イン・アース*	タオルやTシャツ、布ナプキンなど、オーガニックコットン製品
	わんのはな～エコジカドッグライフ～	愛犬のための自然食とエコロジー雑貨
	株式会社ナファ生活研究所	抗菌力のある竹繊維を使用した製品
	ワイルドツリー	ノーゼンライト社製のミツロウキャンドル
	ロゴナ・セミンツ / ココウエル	オーガニックコスメ、ココナッツオイルなど
FHCYアジア障害者パートナーズ	タイ国南部の障がい者によるフェアトレード製品	
SlowWaterCafe*	南米エクアドルからのサイザル麻雑貨など	
フェアトレードショップ サウスウインド	フェアトレードカートンコーヒーECO-BLACK	
クラフティング南風	バングラデシュ、ネパールのフェアトレード製品	
ぐらする一つ	フェアトレード雑貨各種	
honobono号	湘南の海に流れ着いたビーチガラスのネックレスなど	
はんこやねこ	オリジナル手彫りはんこ	
CASOLEA	オーガニックコットンのアパレル、インテリア、雑貨など	
junkies	手作りバッグ教室、オーガニックコットンバッグ	
Santai Bali～バリ島の草木染め&雑貨～	バリ島の昔ながらの製法で染めた草木染め衣料	
Chahat	オリジナルヘンプ製品、ネパールのビレッジレザー製品	
kurkku village	POCTライアル、Tシャツ、デニム、タオルなどのプレオーガニックコットン製品	
見晴らしの丘	環境に配慮した、オリジナル&セレクト製品	
	REBIRTH PROJECT	kurkkuとのコラボTシャツやタオル、オリジナルデザインのジーンズなど

(*ap bank協賛先)

koti market ワークショップ

koti marketの雑貨出店者からの声により、雑貨出店者自身によるワークショップを開催しました。それぞれの専門店スタッフによるバラエティーに富んだワークショップは、素材や環境など、「もの」にまつわるストーリーを聞いて、「もの」への思いを馳せながら体験できるものづくりとなり、毎回予約がいっぱいになるほど大盛況でした。

内容	出店者
ねんどでコネコネバスフィズ(入浴剤)作り	ポディクレイ
オーガニックコットンのハギレでポンポンヘアゴム作り	CASOLEA
フェスの必需品! 日焼けと虫刺され対策手作りコスメ!	ワイルドツリー
ココナッツリップ作り	ココウエル
エコレザーでつくる! アロマペンダント	てのひらワークス
オーガニックコットンで布ナプキンとコースター作り	オーガニックコットンのメイド・イン・アース
フェアトレード タグアの実指輪作り	SlowWaterCafe
あなただけのフェアトレードアクセサリーを作ろう!	フェアトレードショップ サウスウインド
ヘンプ編みワークショップ	honobono号
シャカシャカ楽しいコーヒー焙煎体験♪	(株)ウインドファーム
天然素材の口紅作り	ワイルドツリー
ミツロウCHANDLE作り	ワイルドツリー



オフィシャルグッズ

ap bank fesのオフィシャルグッズは、できるだけ環境負荷の少ないもの、すこしでもサステイナブルな世の中になっていくための手助けになるようなものを素材に選び、使用しています。またそのデザインにおいても、ap bank fesの主旨に賛同した豪華クリエイター達とのコラボレーションにより、アーティストパワーを感じることができる素敵なデザインに仕上がっています。ap bank fesが伝えたい環境などに関するメッセージをデザインに込めた、オフィシャルグッズです。

オーガニックな世の中を広げる プレオーガニックコットン

オーガニックコットンの認証を受けるには、オーガニック農法＝無農薬栽培を3年間続ける移行期間が必要です。この移行期間は、農薬を使わないため収穫量が減りながらも、オーガニックコットンとして認められず買取価格も上がりません。そのため、農家さんへの負担が大きくなり、なかなかオーガニック農法の実施に踏み切れないという実態があります。その移行期間をサポートし、オーガニック農法を後押しするのがプレオーガニックコットンです。私たちがプレオーガニックコットンを選ぶことで、インドのオーガニック農法を望む農家さんを後押しし、ひいてはオーガニックな世の中への移行を支えることができます。

親子で楽しもう! キッズTシャツ

ap bank fesのオフィシャルTシャツにキッズサイズが初登場しました。親子ペアで楽しむap bank fes! 家族みんなで楽しめるサイズ展開です。

マフラータオル

Design: 宮脇亮

ap bank Tシャツ(ホワイト)
Design: 丹下祐希

ap bank Tシャツ(ピンク)
Design: 森本千絵

LOVE CHECK Tシャツ(ホワイト)
Design: buggy

eco-reso Tシャツ(ネイビー)
Design: 清川あさみ

eco-reso Tシャツ(ホワイト)
Design: スズキコージ

eco-reso Tシャツ(ブルー)
Design: Coa Graphics

eco-reso Tシャツ(オレンジ)
Design: 永戸敏也

環境 Tシャツ(イエロー)
Design: 荒井良二

環境 Tシャツ(グリーン)
Design: 板倉敬子

音楽 Tシャツ(ホワイト)
Design: 前内道彦

農/オーガニック Tシャツ(ベージュ)
Design: アリシア・ベイローレル

沿志奏達 Tシャツ(グリーン)

沿志奏達2 Tシャツ(ピンク)

沿志奏達3 Tシャツ(イエロー)

バスタオル
Design: アリシア・ベイローレル

音楽xLOVEキャップ(レッド)
Design: 大日本タイポ組合

ap bank fes '10 xSIGGコラポトル

ここ10年程で、ペットボトルの生産量は急激に増えました。使用済みペットボトルの回収率も日本は世界最高水準と言われていますが、それでも1/3程は廃棄されてしまっているのも事実です。便利だからこそ利用してしまうペットボトルですが、そもそも使用しなければ、ごみとなってしまうことも、リサイクルでエネルギーを使うこともありません。ペットボトル飲料を買うのではなくマイボトル持参に切り替えることで、ペットボトルの使用量の削減と経済的な節約につながります。マイボトルを持ち歩くというちょっとした行動も、積み重ねれば大きな力となるのです。

Design: 宮脇亮

ap bank fes '10 xPORTER コラポトルバッグ

ap bank fes '10xPORTERコラポトルバッグは、素材にリサイクルコットンを使用しています。台風の影響で1日のみの開催となったap bank fes '07で大量に余ってしまったオフィシャルTシャツの再利用法として出会ったのがリサイクルコットン。それ以来、どうしても余ってしまったTシャツは翌日のap bank fesのグッズの素材として再利用してきました。ap bank fes '10でも、前回余ってしまったTシャツを細かく裁断し、綿糸と紡ぎ合わせ、新たにリサイクルコットンの帆布として再生しました。使用しなくなったものも捨ててしまうのではなく、再利用する方法があれば、また資源として有効的に活用できます。

Design: 宮脇亮

リサイクルポリエステル繊維

ペットボトルから生まれたリサイクルポリエステル繊維

Color: ピンク/ネイビー
Design: 森本千絵

リサイクルポリエステル繊維

ap bank fes '10のオフィシャル風呂敷は、帝人ファイバー(株)の循環型リサイクルシステム「エコサークル」から生まれたリサイクルポリエステル繊維で作られています。これは、回収した使用済みのペットボトルやポリエステル繊維製品などを、化学的手法を使った処理工程で分子レベルまで分解し、その高純度の原料から再びポリエステルをつくり、繊維にしたものです(これをケミカルリサイクルといいます)。分子レベルまで分解することで、再生可能な原料から染料などの不純物を完全に分離できるため、素材をムダにすることなくリサイクルすることができます。また、新たに石油から作るものと比べても同品質のものが作れるため、何度でもリサイクルすることができます。この風呂敷も、不要になった時には「エコサークル」のなかで再びポリエステル繊維として生まれ変わることができるのです。このようなポリエステル製品のリサイクルを行っていくことで、ゴミを大幅に減らし、新たな石油資源の使用を抑制することができます。また、石油からポリエステル原料を製造するときに比べてエネルギー消費量、CO2排出量ともに大幅な削減につながります。そして、ap bank fes '10の会場で分別回収したペットボトルも、「エコサークル」のなかで、再生ポリエステル繊維へと生まれ変わりました。

※「エコサークル」は帝人ファイバー株式会社の登録商標です。

エコプラントヘンプ

ap bank fes '10のオフィシャルキャップは、素材にヘンプを使用しています。ヘンプとは、アサ科の大麻草のこと。古くから葉や花は薬品、実は食用として、茎から穫れる繊維は衣料や紙に、種子から穫れる油は化粧品やプラスチック、エネルギーの原料など、様々な用途で使用されてきました。害虫や気候の変化に強く、成長に農薬や化学肥料が不要で、土地を選ばず成長も早く栽培が容易なため、環境負荷の少ない有効素材として注目を集めています。ヘンプの繊維は通気性・吸湿性に優れ、夏涼しく冬暖かいという特徴があり、真夏の炎天下に被る帽子の素材に最適です。環境によいとされる素材も増えてきましたが、それぞれの特徴を活かした適切な素材を選んでいくことが大切です。

Design: 大日本タイポ組合

オーガニックコットン

チューリップハット

Design: 大日本タイポ組合

vege-reso project

20th day
本業もソックと出てきました

環境と経済が両立した「循環型社会」を実現するためのキーワードに、「3R」という考え方があります。

リデュース(Reduce)

なるべくごみを出さない

リユース(Reuse)

一度使ったものを、捨てずに繰り返し使う

リサイクル(Recycle)

使わなくなったものは、資源として再生利用する

ap bank fesでは、2005年の初開催から、多くの人が訪れるイベントでもどうしても出てしまうごみについて、抑制/分別/再生利用を徹底し、さまざまな取り組みを行ってきました。出てしまったごみをできるだけ資源として「リサイクル」することはもちろん、同時に、繰り返し使える「リユース」できるものを選んだりすることで、わたしたちのごみに対する意識を、根本からごみを出さない「リデュース」の方向へと徐々にシフトしていくことを目標としています。

これらの取り組みは、賛同していただいた企業や団体による協力、そして来場者や出店者のみなさん一人ひとりのアクションによって成り立っています。ap bank fesで行っているのは、たくさんある環境負荷軽減のための取り組みのなかのほんの一例ですが、こうして実際に会場でも体験していただくことで、何かの気付きや普段の生活でできるアクションへのきっかけとなれたらと思っています。

マイ箸・マイカトラリー、マイ食器
～リデュース、リユースの取り組み～

ごみを出さない「リデュース」の取り組みのひとつとして、ap bank fesでは、お箸や食器について、来場者自身に主体的に実践していただく取り組みを展開しています。

ap bank fes '09から、マイ箸・マイカトラリーの持参を必須にし、飲食店でのわりばしや使い捨てカトラリーの無料提供を廃止。忘れてしまった方は、会場内に設けたカトラリースタンドで、間伐材でできたお箸やカトラリーを1つ50円で購入できるようにしました。無駄なごみを出さないことはもちろんのこと、この取り組みがイベントだけではなくマイ箸を日常的に使うきっかけとなればと考え、今回も引き続きこの取り組みを行いました。2年目となったこの取り組みも多くの協力の協力によって、割り箸やカトラリーのごみの排出量を210kgに抑えることができました。前回に比べると約80kg増加しましたが、取り組み以前のap bank fes '08の実績と比べると約200kgも削減できています。繰り返しひとつのものを使うことで、使い捨ててごみとなっていたものを出さない「リデュース」を多くの方に体験していただくことができました。



また、ap bank fesではマイ食器(マイカップ・マイディッシュ)の持参も推奨しています。マイ食器を繰り返し使えるよう、エコステーション内に洗浄所を設置し、そこでは食器についた食べ物の汚れを水で洗う前に拭き取る1アクションを実践していただきました。どうして拭き取るのか、このひと手間がどう環境に繋がっているのか、などのボランティアスタッフによる洗い方ナビゲート聞きながら楽しく実践していただけるようにしました。



マイ食器洗浄所で実践!



カトラリースタンドでお箸やカトラリーを購入!

パワーアップしたエコステーション

ap bank fes '10のオーガニックフードエリアkoti. piha. キッズエリアpuuでは、これまでごみの分別回収とリユース食器の回収を行ってきたエコステーションをパワーアップ。新たにマイ食器の洗浄所を加え、洗い方ナビゲートも展開しました。ごみの分別をナビゲートするスタッフがいったり、リユース食器を返却している人がいたり、マイ食器を洗っている人がいたり。ap bank fes '10で展開するさまざまなごみに関する取り組みを同じエコステーションのなかで見て、感じていただくために、

※ライブエリアおよびkurkku village. koti marketのエコステーションは従来通り、ごみの分別回収とリユース食器の回収のみで展開しました。

これらの機能を1つのエコステーションにまとめました。また、こうしたap bank fesで行うごみに関するさまざまな取り組みは、国際青年環境NGO A SEED JAPAN「ごみゼロナビゲーション」のコーディネートのもと、たくさんのボランティアスタッフに支えられています。その活動は、ごみの分別ナビゲーションやごみの計量、リユース食器の回収・洗浄、古々米ごみ袋の配布など、多岐にわたります。

ap bank fes式 マイ食器の洗い方

ap bank fes '10会場でも実践していただいた洗い方です。日常生活にも気軽に取り入れやすく、水を不必要に汚さないための1アクションです。



※ 水質汚染の大きな原因となっている「生活排水」なかでも、調味料や油がついた食器をそのまま洗い流す自所からの排水による影響が大きいと言われています。
※ 古布は、ap bank融資先の株式会社ワインローダーならびに花嫁わた株式会社との協力により、不要になった布製品を回収したものを再利用しました。



リユース食器 ～リデュース、リユースの取り組み～

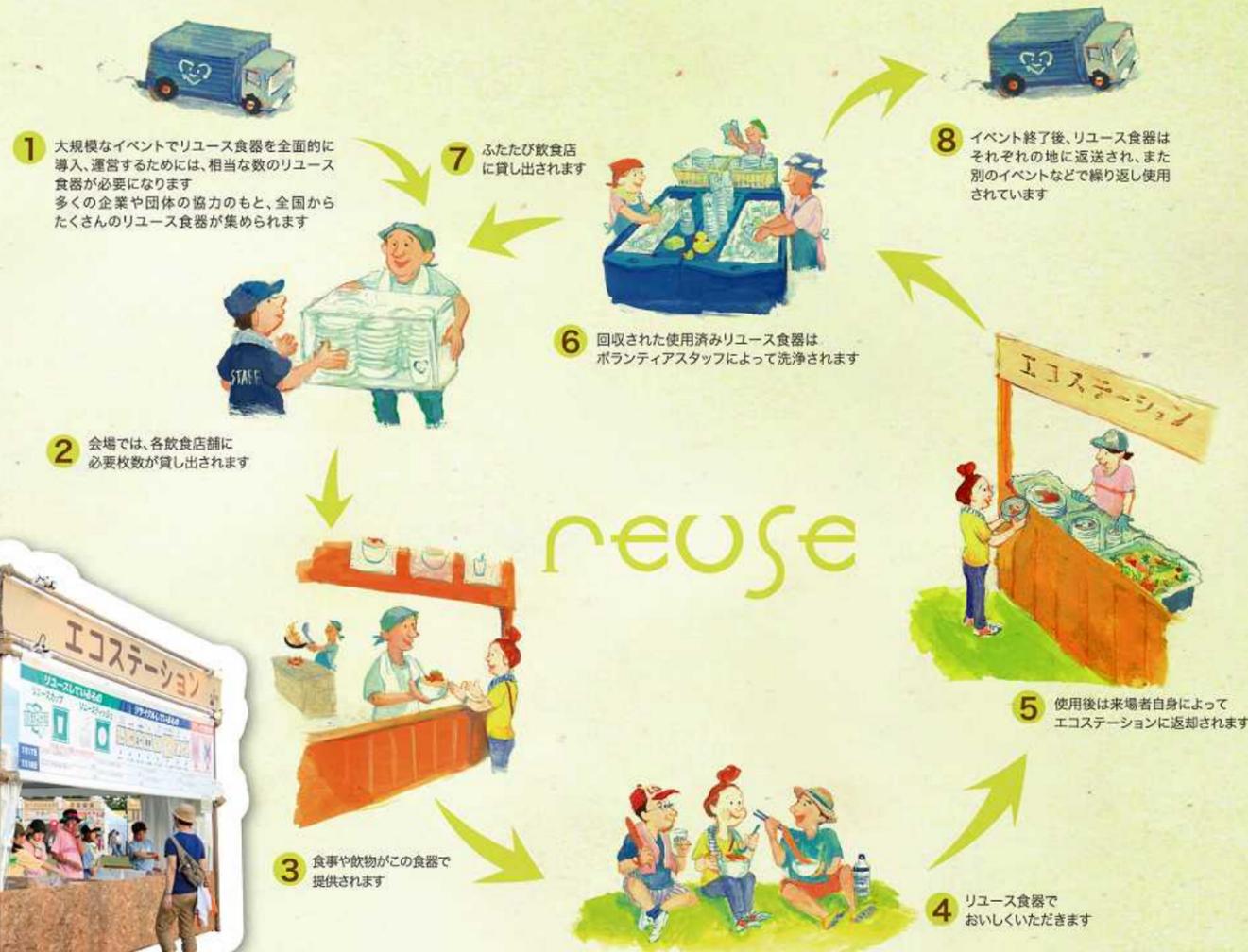
ap bank fesでは、繰り返し使用できるリユース食器を導入しています。これによって、一度使ったらごみになってしまう紙皿や紙コップなどのごみを出しません。

初開催時からリユースカップの推奨を始め、回を重ねるごとに少しずつリユース食器の導入割合を増やしてきました。4回目となったap bank fes '08で、同規模の野外イベントでは初の試みとしてイベント期間中を通してリユース食器の全面導入を達成。ap bank fes '10では、マイ食器の持参を推奨し、来場者自身のアクションにつなげる仕組みを展開しつつ、引き続きリユース食器の全面導入を行いました。



リユース食器の仕組み

リユース食器の仕組みはたくさんの方々のアクションによって実現しています。



実績

リユース食器を全面的に導入することでごみの削減が可能になる一方、この仕組みを運営するために、イベント会場までの食器の運搬や会場での洗浄作業など、さまざまなところで多くのエネルギーを消費しているのも事実です。このような負荷を少しでも減らすために、リユース食器を余らせない用意数と、会場なるべく洗浄しなくても運営できる必要数を見極め、できるだけ無駄のない運営に取り組んでいます。今回は前回に引き続き、主にリユースカップを優先的に洗浄し、1つのカップを1.8回使用しました。

また、会場で使用したリユース食器は必ずエコステーションまで返却していただいているが、残念ながら紛失してしまうものも少なくありません。リユース食器は、ap bank fes '10内ではもちろん、その後もさまざまなイベント会場などで何回も繰り返し使用されることで、環境負荷の軽減に貢献します。少しでも多く「リユース」されるためにも、使用する一人ひとりの返却までの一連の協力がとても大切です。

ap bank fes '10 リユース食器導入実績

	リユースディッシュ	リユースカップ
利用回数(総数)	126,160 枚	88,139 個
回転数*	1.1 回転	1.8 回転
紛失回数	1,358 枚(全体の1.1%)	3,214 個(全体の3.6%)

※食器1つにおける、イベント期間中の使用回数



ごみの分別とそのゆくえ～リサイクルの取り組み～

どうしても出してしまうごみも、きちんと分別回収すれば「資源」として有効活用することができます。

ap bank fesでは、ごみをできるだけ多く資源にするため、初開催時から10項目以上のごみの分別回収およびリサイクルを実践してきました。開催毎に、新しいリサイクルの技術やその地域内で循環する仕組みなど、さまざまな角度からごみのリサイクルについて検討し、また、過去の実績を踏まえて、その時に適切と考えるリサイクル方法と、そのためにふさわしい分別項目を選択しています。

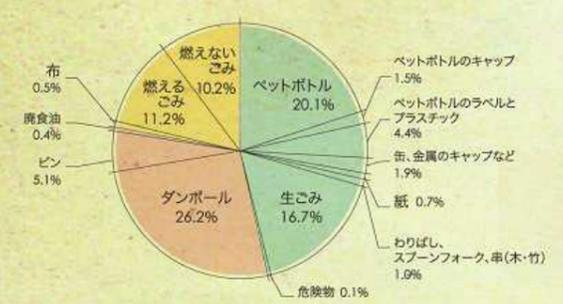
ap bank fes '09で、ごみの分別項目や表現方法などの見直しによってこれまでより多くのものを資源として抽出できたことをうけ、ap bank fes '10ではその分別項目とリサイクル方法を踏襲し、14分別（来場者11分別、出店者・運営者+3分別）としました。リサイクル委託先についても、前回同様、運搬にかかるエネルギー負荷を考慮して、できるだけ地元や同県内の企業に依頼しました。



ap bank fes '10 ごみの14分別とそのゆくえ

●来場者／出店者／運営から排出されたごみ(11分別)				
店名	排出量	処理方法	再生物	リサイクル委託先
1 ペットボトル	4456kg	ケミカルリサイクルで分子レベルに分解し、ポリエステル原料に	ポリエステル繊維	帝人株式会社
2 ペットボトルのキャップ	340kg	洗浄・破砕して再びペレットに	プラスチック製品	株式会社エコネコル
3 ペットボトルのラベル、プラスチック(食べ物の汚れがついていないもの)	980kg	分解し、紙や木材と混合して固形燃料に	RPF(固形燃料)	株式会社エコネコル
4 缶(アルミ、スチール)、金属キャップなど	412kg	素材ごとに選別・溶解し、再び鋼材に	缶・金属製品	株式会社エコネコル
5 紙(食べ物の汚れがついていないもの)	149kg	溶解してパルプと混合し、パルプ原料に	再生紙	市栄産業株式会社
6 わりばし、スプーン・フォーク、串(いづれも、木・竹のもののみ)	210kg	洗浄・破砕し、燃料資源に	燃料チップ	株式会社イーシーセンター
7 生ごみ	3715kg	水分と養分を調整して飼料化	ふたの飼料	有限会社ひがしぐま
8 危険物(乾電池など)	8kg	それぞれの製品ごとに分別し、適正に処理		
9 布(食べ物の汚れ拭き取り古布の回収専用)	125kg	燃えるごみとして処理		
10 燃えるごみ(食べ物の汚れがついた紙、特殊加工された紙ごみなど)	2497kg	一部熱利用し、一部埋立処分		
11 燃えないごみ(食べ物の汚れがついたプラスチック、ビニール類)	2274kg	一部熱利用し、一部埋立処分		
●出店者／運営からのみ排出されたごみ(+3分別)				
店名	排出量	処理方法	再生物	リサイクル委託先
12 ダンボール	5810kg	溶解してパルプと混合し、パルプ原料に	再生紙	株式会社市川商店
13 ビン	1130kg	素材ごとに分別して破砕、カレットに	ビン・ガラス製品	株式会社エコネコル
14 廃食油	80kg	精製し、バイオディーゼル燃料へ	BDF燃料	株式会社セベック

イベントで出たごみの割合



●...リサイクルされたごみ
●...リサイクルされたごみ(出店者/運営から出たごみ)
●...リサイクルされなかったごみ



実績と考察

ap bank fesのごみに関する取り組み内容や方法については、その分別項目やリサイクル方法などを開催毎に決定しているため、毎回同じということではありません。また、来場者数や出店店舗数、飲食店が取り扱う食材、天候など、開催毎にその条件が異なるため、実績数値だけで過去の実績と比較することはできません。しかし、全体の数値やそれぞれの項目を丁寧に分析することで分かることもたくさんあります。

ap bank fes '10では、ステージレイアウト変更に伴い来場者数は前回は下まわりましたが、前回に比べてごみの総排出量が約3t(15.5%)の増加となりました。これは、出店店舗数が前回よりも増えたことや、かなりの暑さだったため、ペットボトル飲料が大量に消費されたことによると考えられます。

また、ごみの総排出量は増えたものの、その内訳を見ると、リサイクルできないもの(「布」「燃えるごみ」「燃えないごみ」)は前回に比べ約300kg(6.6%)の増加と、少ない増加幅に抑えることができました。これは、参加者一人ひとりの協力によってごみがきちんと分別され、より多くが「資源」として回収されたことによります。これによって、ap bank fes '10のごみのリサイクル率は前回より向上し、77.9%という結果になりました。

ごみの総量 (内訳)	22,186 kg	<前年比:2,986 kg 増>
	資源として再生利用されるもの	: 17,290 kg
	リサイクルできないもの	: 4,896 kg
リサイクル率	77.9 %	<前年比:1.8 % 向上>
来場者1人あたりのごみの量	178.4 g	<前年比:30.3 g 増>

ごみの分別辞典

普段の生活におけるごみの分別項目や回収方法は、居住地域によって異なります。ap bank fesでは、独自の分別項目に従って、全国各地から訪れる来場者や出店者のみなさんに、普段とは違うごみの分別回収を実践していただいています。そのため、ごみの分別の際に迷ってしまわないよう、どんなごみがどの分別項目にあたるのか、品目例をまとめた「ごみの分別辞典」を作成しました。この辞典を来場者のごみの分別をサポートするボランティアスタッフや出店者に配布し、分別に迷った際などに参照していただくことで、よりスムーズなごみの分別が可能になりました。

ごみの計量

ap bank fesでは、分別回収されたごみを項目ごとに計量し、その数値を開催期間中にリアルタイムで公表しています。前回から出店店舗ごとの計量も実施し、より詳細な数値を蓄積することにしました。どこでどんなごみがどれだけ出ているのか、分別項目や店舗ごとに出された数値をひとつずつ分析して、今回のごみの分別項目やリサイクル方法が適切であったかなどの事後検証を行います。同時に、なるべくごみを出さない仕組みを考えるための重要な資料としても活用します。それはイベントだけではなく、わたしたちの日常生活でも活かせるヒントにもなっています。



ペットボトルの圧縮

天候に恵まれたap bank fes '10ではペットボトル飲料が大量に消費され、4,456kgの使用済みペットボトルを回収しました。それらは、会場内のthink wasteブースで圧縮され、白い大きなキューブ状の塊になります。ペットボトルはそのままだととてもかさばりますが、圧縮し減容することで、運搬車両の台数を減らすことができ、運搬時にかかるエネルギーや環境負荷を軽減することができます。



来場者自身によってキャップとラベルを取り除かれたペットボトルはこんなにキレイ!

お米から作られたごみ袋

会場では、薄茶色で少しざらっとした肌触りの携帯用ごみ袋を配布しました。このごみ袋は、古くなった備蓄米などさまざまな理由で食用に適さなくなった「古々米」を原料の一部として使用した「バイオマスプラスチック」できています。燃焼カロリーが低いため焼却炉にもやさしく、有毒ガスの発生もありません。また、通常使用されているポリエチレンのごみ袋と比べて、CO₂の発生量を30%削減できます。食べられなくなって捨ててしまうものを有効活用したリサイクルの技術を、会場でみなさんに体感していただきました。



お米の香ばしいにおいがします

掛川駅周辺のごみ拾い

ap bank fesでは、会場内だけではなく、会場の外もごみのないきれいな状態でイベントを終了できるよう、有志の方を募って、会場最寄りの掛川駅周辺のごみ拾いを行っています。NPO法人 green birdの協力によってap bank fes '07から始まったこの取り組みには、地元のNPO法人 掛川若者支援会のみなさんや来場者、地元の方々などたくさんの人が積極的に参加してくださっています。今回も、イベント開催期間中と終了翌日の計4日間、お世話になった掛川市に感謝の気持ちを込めてごみ拾いを行いました。地元の子どもたちや、なかには2度目や3度目の参加という方もいて、ごみを拾いながらのコミュニケーションに会話も弾みます。ごみ拾いをしながら歩けば掛川市の景色や町並みを楽しむこともできます。多くの方に参加していただき、会場の外でもap bank fesの取り組みを体感していただくことができました。



地元の子供たちもごみ拾いに参加



ごみのゆくえレポート ～リサイクルの取り組み～

ap bank fes '10で分別回収されたごみの総量は、**22,186kg**。

そのうちの**77.9%**にあたる**17,290kg**が、「ごみ」ではなく「資源」として再生利用されました。

これらが、どこでどのようにリサイクルされたのか。全部で14ある分別項目のなかから、「わりばし、スプーン・フォーク、串」と「廃食油」のリサイクルの様子をレポートします。

『わりばし、スプーン・フォーク、串(木・竹のもののみ)』のリサイクル

ap bank fes '09から始めたマイ箸・マイカトラリーの取り組み(P09)によって、それまでと比べて排出量を大幅に削減した「わりばし、スプーン・フォーク、串」ごみ。ap bank fes '10では210kgが排出されました。これらは、静岡県富士市にある株式会社イーシーセンター(以降、イーシーセンターと表記)の富士ステーションで燃料チップに生まれ変わりました。

イーシーセンターに運ばれてくる廃木材は、主に建設業(家屋の解体など)から出る廃木材とのこと。ap bank fes '10で分別回収した210kgの「わりばし、スプーン・フォーク、串」も、この廃木材とともにリサイクルされました。

まず、機械を使って、プラスチック、木、金属、リサイクルできないものなどに大きく選別します。



分けた廃木材や木くずを、木材チップ化装置(ツインカッター)にかけ、細かく破碎していきます。



破碎後、磁選機を通して細かい鉄くずを取り除きます。なお、除去された鉄くずもきちんとリサイクルされています。



振動ふるい機にかけ、大きさをそろえていきます。4cmを超えるものはふたたびツインカッターにかけ、4cm以下になるまで、破碎→磁選機→ふるい工程を繰り返します。

こうして大きさがそろえられた木くずは、燃料チップとして再利用されます。

イーシーセンターでは、ごみをリサイクルするためのひとつひとつの工程を丁寧に進め、不純物がなく再利用しやすい、価値の高い資源づくりを目指しているそうです。

「ごみの資源化には、お金がかかります。ごみを、より高品質の資源にしていくためには、分別などの作業工程を増やしていくことになります。その結果、費用がかさんでしまうのですが、できるだけコストをかけずに品質のよい資源を生み出す努力を、日々続けています。大変ですがそこにやりがいを感じています」とイーシーセンターの海野さんは話してくださいました。



イーシーセンターではごみになってしまうものの資源化などの環境事業活動だけではなく、工場そのものも、周辺地域への環境配慮にも力を入れています。粉塵をできるだけ外に出さないよう、工場内にミストで粉塵の飛散を防止するミストネットを導入したり、また、高速シャッターで外部への粉塵の流出を最小限に抑える工夫をしています。地域と共存していくための心遣いです。

『廃食油』のリサイクル

ap bank fes '10で回収した廃食油100ℓは、株式会社セベック(以降、セベックと表記)の精製装置で化学反応、洗浄行程などを経て、バイオディーゼル燃料(=BDF)(P22)91.4ℓに生まれ変わりました。

食用油は、わたしたちの食生活に欠かせないものです。日本全国での廃食油の排出量は、業務用・家庭用をあわせて推定約40～50万t/年といわれています。このうち、レストラン、ホテル、給食センターなどから業者が回収できているのは約30万t/年、残りの大部分は家庭から排出され、燃えるごみとして廃棄されたり一部はそのまま台所に流され川や海の水質汚染の原因のひとつとなっているのが現状です。近年は、廃食油を資源として有効活用する仕組みとして、捨てずに回収してBDFの原料として再利用する取り組みが、さまざまな自治体や企業によってなされています。

ap bank fesでは、2006年より、セベックの協力のもと、イベントで分別回収された廃食油をBDFとしてリサイクルする取り組みを行っています。セベックは、会場のオーガニックフードエリアなどの発電機の燃料として使用するBDFの調達先でもあります。

ap bank fes '10で回収した廃食油は100ℓ。重量にするとおよそ80kgです。

出店者から回収した廃食油は計量後、ドラム缶にまとめられ、セベックのBDF精製における業務提携会社のプロジェクト運送有限会社のBDF精製場へと運ばれました。ここで、バイオディーゼル燃料化装置(EOSYS-100M)を使用し、6時間かけてBDFを精製しました。



バイオディーゼル燃料化装置 想像していたよりもコンパクトです。

セベックでは、BDFの販売や廃食油の回収から自社精製だけではなく、バイオディーゼル燃料化装置の販売も行っています。だれでも安全にBDFを精製することができるよう、装置の運用指導を丁寧に行い、全国各地でBDFの利用促進を行っています。

燃料を精製するというと、とても大掛かりな機械を想像していたのですが、今回、ap bank fes '10の廃食油のリサイクルで使用したものは意外にもコンパクトな装置で驚きました。もともとは大規模な装置だったそうなのですが、飲食業や社会福祉施設、大企業から小さなNPO団体、個人の方など、どんなところでもだれでもBDFが精製できるように、との思いから小型化したそうです。「BDFの精製には、廃食油をどれだけ回収できるかが大きなポイントになりますが、周辺地域と協働しながら社会活動ができるという点で、特に社会福祉施設への導入事例が多く、また実際に作業をされて大変喜んでいただけています」と、セベックの藤枝さんは嬉しそうに話してくださいました。

家庭や飲食店から大量に出る使用済みの食用油(=廃食油)や、未使用のまま賞味期限が切れてしまった食用油。身近なものが、捨ててしまう「ごみ」から「資源」として、環境にやさしい燃料に生まれ変わります。今回取材したプロジェクト運送有限会社での取り組みのような、小さなアクションが地域に根ざした事業としておきな環境活動へと繋がっていくのです。



eco-reso talk

ap bank fesでは、初開催から一貫してオーガニックフードエリアでトークセッションを行っています。メインのライブステージに次ぐ大きなステージとして3,000人規模のトークステージを設置していることも、ap bank fesの特徴のひとつです。

前夜祭を含む4日間毎日、有識者やさまざまな分野で環境問題に取り組んでいる方、環境問題に関心の高いアーティストを交えてトークを行いました。ap bank 代表理事の小林武史も全ての回に参加し、環境問題や持続可能な社会創りをテーマに熱い議論を交わし、ap bankが今興味のあることや考えていること、たくさんの多様な考え方を来場者に知っていただきました。

7月16日(金) eco-reso+(plus) 前夜祭

ON A NIGHT LIKE THIS for HAITI 2 災害復興支援～わたしたちにできること



MC: サヘル・ローズ, GAKU-MC
GUEST: 土井香苗, 若旦那, Salyu, 一青窈, 登坂兄弟(登坂亮太, 登坂太頼), 小林武史 (敬称略)

第一回のトークに集まったのは、NHKのTV番組「地球ドキュメントMISSION」のキャストのお2人と、そのテーマソング「足跡」を唄うキャタピラーのメンバー。キャタピラーのメンバーはある縁で繋がっています。Salyuさん、一青窈さん、GAKU-MCさん、小林武史が2月に「ON A NIGHT LIKE THIS for HAITI」というハイチ災害復興支援イベントを行った同じ頃、若旦那さんも「LOVE for HAITI」というチャリティライブイベントを各地で行っていました。後に若旦那さんと小林武史が出会い、「他の国のことだから関係ないというのではなく、なにかを感じて一歩前に動き出すことができる」そんなメンバーと共に、キャタピラーを結成。何かを伝えたいという思いをもって音楽を奏でます。人はそれぞれの持って生まれたミッションがある、とのことで皆さんの思うそれぞれのミッションを伺いました。

-
- サヘル・ローズ 故郷に孤児院を作ること(サヘルさんは、イラン・イラク戦争の戦争孤児)
- 土井香苗 人権問題改善のために尽力すること
- 若旦那 毎日がミッション
- Salyu 自分が受けた才能である歌をもって伝えていくこと
- 一青窈 関心を持っている少年兵の問題が起こっている現場に行って、実際に見て感じたい
- 登坂亮太 ローカルでできる活動から世界に目を向けたい
- 登坂太頼 地球の裏側で起こっているようなことも、遠い世界の出来事ではないという意識
- 小林武史 自分の役割を果たしたい

7月17日(土) eco-reso talk×NHK-BS「地球ドキュメント MISSION」Special Talk Session つながりひろがる食と農



MC: サヘル・ローズ, GAKU-MC
GUEST: 奥田政行(イタリアン・レストラン「アル・ケッチャーノ」オーナーシェフ)、土井香苗、小林武史 (敬称略)

ゲストは小林武史の故郷でもある山形県で、なかなか予約が取れない程人気のイタリアンレストラン「アル・ケッチャーノ」のオーナーシェフ奥田さん。奥田さんが掲げるミッションは、料理を通じて日本の農業を元気にすること。地元山形県庄内の農家の衰退に危機感を感じ、料理人としての社会的な役割で何が出来るかを考え実行しました。アル・ケッチャーノで使用する食材はすべてが地元産とのこと。自ら畑に出向き、地元食材の魅力を発掘し、それを使って新しい料理を作り出し、地元野菜をブランド化することで農家の生活を向上させました。また、「庄内を食の都」という大きな目標を掲げ、仲間意識を持って育み合うことができるよう、地元

農家の意識の底上げを図りました。奥田さんは全国から自分のもとに集まる研修生に、こうしたアイデアや知識を惜しみなく教えるといいます。アル・ケッチャーノのようなレストランが日本中にあれば、地元の野菜を使うことで地元で郷愁が湧いて、地元地域を誇りに思うようになります。同じ夢を抱く同志を増やしていけば、自らの夢が皆の夢となり、日本各地に広がっていくのだとか。農家が元気だと日本が元気になるといいます。今後は庄内に限らず過疎地を盛り上げていきたいと、奥田さんのミッションはまだまだ続きます。



※ エコレゾ ウェブとは・・・
ap bankから生まれたウェブ広場。いろいろな言葉や情報、もの、自然、人が繋がるap bankから生まれたウェブ広場。いろいろな言葉や情報、もの、自然、人が繋がるap bankから生まれたウェブ広場。いろいろな言葉や情報、もの、自然、人が繋がるap bankから生まれたウェブ広場。



7月18日(日)

eco-reso talk×TFM「ap bank radio THE LAST WAVE」Special Talk Session 地球も自分もいい感じにしていきたい ～環境と欲望2010～



MC: GAKU-MC
GUEST: 枝廣淳子(環境ジャーナリスト)、エリイ、小林武史 (敬称略)

ap bankレギュラーラジオ番組のスペシャルプログラム。Twitterと連動して視聴者のつぶやきなども交えたトークを展開し、Ustreamを導入してその様子を生中継するという試みを行いました。

「環境と欲望」というテーマを受けて、最近、欲望自体が薄れてきているのではないかと、小林が疑問を投げかけます。欲望というのはどうなりたいか、どうしていきたいかという希望。それが弱くなっているということは、未来をつくっていききたいというエネルギーが薄れていることの表れに思えると枝廣さんも言います。欲張りすぎない等身大の欲望、周りの情報に流されず本当に自分が大切にしたいことを大切に、振り下ろし、それを実現するためにどうすればいいかを考えると、自ずと環境のことに思いは

行き着きます。それは環境がないと欲望も叶えられないから。欲望＝経済は環境と相対するものと思われていたが、どちらか一方だけでは成り立たないという話から、話題はエリイさんが普段から感じている疑問へとつづきます。食事をするとき、例えば人ひとり割箸一膳使うこと/使わないことはたいした問題ではないのか?と。枝廣さん曰く、たとえ一膳のお箸であっても、全く影響がないということはないのか?。そして問題とすべきは、「もの」との付き合い方であり、その「もの」はどこからきたもので、何に繋がっているのか。その「もの」がもっているストーリーに思いを馳せることができれば「もの」との付き合い方が少し変わるはず。そうすることで、どんな「もの」を選ぶか、欲望の質も変わってくるのではないのでしょうか。

7月19日(月・祝)

POCプレゼンツ「LOVE CHECK」Special Talk Session フェアトレード→グローバル化の現在と未来



MC: GAKU-MC
GUEST: 伊勢谷友介(REBIRTH PROJECT代表)、細川秀和(Lee Japan取締役)、akko(My Little Lover)、小林武史 (敬称略)

消費活動を通して何が出来るか、ということについて実際に商品を作り実践している方々にご登場いただきました。

オフィシャルグッズにも使用されているkurkkuのプレオーガニックコットン(=POC/POB)は、農業を使っていたコットン農家がオーガニック認証を受けるまでの移行期間を支援するというもの。akkoさんも、POCを応援したいと、いち早くツアーグッズなどに取り入れてきたひとり。また、Leeの細川さんは、kurkkuとのコラボレーションによりPOCを使ったジーンズを商品化しました。通常のジーンズは、ダメージ加工のために薬品や水が大量に使用されていますが、このPOCを使ったダメージ加工のために薬品や水が大量に使用されていますが、このPOCを使ったダメージ加工の風合いを生地に印刷することにチャレンジしました。古き良きが大切にしつつも、こういった新しい発想を取り入れていくことで、さまざまな可能性が広がっていくのだそう。一方、伊勢谷さんが代表を務めるREBIRTH PROJECTでは、デッドストックとなったジーンズにデザインを施して新たな命を吹き込んで

います。本来ならば捨てられてしまうようなものに値段が付くことに疑問を抱く人もいるそうなので、そういった方にも着てみたいと思わせるような、カッコいいデザインでなければならぬというハードルの高さもあるそうです。ここから、「愛のある消費」をキーワードにトークが進みます。例えばジーンズや食品などもそうですが、「もの」の安売りの安さを求める傾向があるのは、経済の落ち込みを考えるとやむを得ないところはあるものの、それだけ安さを追求した商品にはそれなりの人件費での製造工程があり、そういったものが売れる限り、安い労働力というものは求められつつも、格差や貧困はなくなるという。安い労働力というものは求められつつも、格差や貧困はなくなるという。安い労働力というものは求められつつも、格差や貧困はなくなるという。安い労働力というものは求められつつも、格差や貧困はなくなるという。

ap bank fes '10をいろいろな角度から知っていただく試み

今回、ap bank fes '10オフィシャルウェブサイト「エコレゾ ウェブ」内で展開しました。出演アーティストやタイムテーブル、取り組みなどイベントに必要な情報はすべて、このエコレゾ ウェブ内のap bank fes '10オフィシャルサイトから発信しました。その一方、オフィシャルサイトと連動して、小林と櫻井の「ap bank fes '10開催決定までの道のり」対談や出演アーティストとの特別対談、キャンプの楽しみ方、運営スタッフ座談会など、今回のイベントでの取り組みやコンテンツに関連した記事をエコレゾ ウェブに掲載。サイトを見てくださる方が、イベント開催前から一緒にap bank fes '10に向かって楽しんでいただけるようなメディア展開を行いました。また、会期中やイベント終了後は、ライブレポートやアーティストコメント、ワークショップ特集など、会場で体験していただいたものを、普段の生活でも思い出していただけるようなコンテンツを公開しています。

さらに、今回はTwitterを使った情報発信にも挑戦しました。最新情報や運営スタッフのつぶやき、会場でのリアルタイムレポートなどを臨場感たっぷりにお伝えしました。また、vege-resoプロジェクト(P05)もTwitterと連動し、参加者同士の情報交換の場としても活用しました。



ap bank fes オフィシャルTwitterアカウント: @apbankfes
http://twitter.com/apbankfes



ワークショップ

ap bank fesでは、来場者参加型のワークショップを多数開催しています。楽しいだけでなく、体験することでなにかを学びとれたり、今後の日常生活に少し潤いをもたらしてくれるようなものばかりです。例えば、いつもならごみになってしまうものや、自然の恵みを使って新たになにかを作ったり、私たちをとりまく身近な環境に気づかせてくれるものだったり。講師は普段からワークショップや人に伝える活動をしている方ばかりなのでとても物知りです。一緒に時間をすごしているといろいろな話が聞けて、新しい世界が広がるように感じられることも。そういった出会いもワークショップの醍醐味のひとつです。



ワークショップ一覧

ワークショップ/出展者	内容
eco-reso booth	<p>RE:RE:GREEN! 東邦レオ株式会社 木の葉や花の形の紙にエコメッセージを書いて、大きな木を作るワークショップ</p> <p>PCキーボードでカード立て&革ハギレでしおり作り 株式会社ウインローダー* 捨てるはずの身近な素材を利用した小物づくり</p> <p>ハンブで作るアクセサリ 結ぶココロ 地球にもからだにも優しいハンブを使って、自分の手で結ぶアクセサリ</p> <p>古布を使って布ぞうりづくりにチャレンジ! NPO法人 いやし鳩ほのぼの カラフルな古布でつくるやわらかな履き心地の布ぞうり。先生は地元掛川のおばあちゃん!</p> <p>koti market feat. エコ雑貨倶楽部 koti market に出品している雑貨店による、パリエーション豊かなワークショップや、エコ雑貨について学べるミニ講座など</p>
piha	<p>eco story by drink キリンビール株式会社 黒ラベルでつくるハガキ、ビール瓶のカレット(ガラスを砕けたもの)でつくる方草鏡、ウィスキー樽でつくるバードコールなど</p>
puu	<p>つま恋自然観察会 財団法人 日本自然保護協会/NACS-J自然観察指導員 草花や虫に詳しいガイドによるつま恋の自然観察ツアー。いつもの見慣れた景色が変わります!</p> <p>魔法の絵の具で遊ぶフェイスペインティング Hagalex シールのようにきれいはがれて土に還る魔法の絵の具をつかったフェイス・ボディペインティング!</p> <p>竹と遊ぼう! 竹に学ぼう! 竹で作る☆ワークショップ ちかげん つま恋の竹をつかった竹の灯籠やマイ箸、竹の水鉄砲づくり</p> <p>つま恋の枝でえんぴつをつくらう! Natural House Project モミジ、銀杏、梅、サクラ、栗、柿など、好きな剪定枝を選んで削って、えんぴつづくり</p> <p>eco challenge by ap bank radio ap bank radio企画によるコーナー</p> <p>GAKU-MCのラップ教室! GAKU-MC GAKU-MCが唄にのせてラップの面白さを伝えます。ちびっこも手作りシェイカーで参加</p> <p>MY楽器を作ってセッションしよう! おんらく市場 ビールの玉冠や、ひょうたんを利用したユニークなオリジナル楽器をカスタマイズ、みんなで演奏!</p> <p>みんなで描こう! ニガオエグキウキ WORLD1 巨大キャンバスに、みんなが身近な環境を描くワークショップと、特別な笑顔をつめこんだ似顔絵</p> <p>eco story by drink アサヒビール株式会社 閑伐材を使ったものづくりワークショップ</p> <p>リラクゼーションヘブン Relacle リラクゼーションマッサージ</p> <p>リラクゼーションヘブン Expance.. インドで5千年の歴史、世界最古の伝統医学アーユルベダマッサージとヨガ</p> <p>kurkku village tailor's park - goen* haute couture goen* 古くなってしまったTシャツのリメイクワークショップ</p>



koti market feat.エコ雑貨倶楽部 コンテンツ一覧

ワークショップ

- フェスの記念のミツロウキャンドル作り
ワイルドツリー
- こねこね手ごね石鹸
ミス・アプリコット
- 布ナブキンの手作りワークショップ
オーガニックコットンのメイド・イン・アース*
- ねんどでコネコネバスフィズ(入浴剤)作り!
ポティクレイ
- ココナッツリップ作り
ココワエル
- タンニンなめし革で足と地球に優しいサンダルを作らう!
でのひらワークス
- あなたのフェアレードアクセサリを作らう!
フェアレードショップ サウスウインド

エコ雑貨スクール(講座)
koti marketの出店者が、分りやすく商品にまつお話をその活用法などを解説します。

- 「ペットのエコジカルライフとは?〜環境=共生=生物多様性〜」
わんのはな
- 「竹繊維の夜明け」
ナファ生活研究所
- 「誰も知らないココナッツのチカラ」
ココワエル

ミニトーク

フードエリアpihaのeco-reso boothでは、前夜祭を除く3日間、ミニトークを行いました。ゲストは、ap bank fesの会場内で運営や出店者として働いているスタッフやap bankに深く携わっていただいている方々。どのようにしてap bank fesが成り立っているか、どんな人達がどのような思いをもってap bank fesを作っているのかを知っていただくよい機会となりました。来場者との距離も近い、カジュアルなスタイルのトークを展開しました。



キッズエリアpuu

ap bank fesは親子でお楽しみいただけるよう、ライブエリアには「ファミリーゾーン」を、フードエリアには「キッズエリア」を設けています。未来を担う子どもたちにこそ、ap bank fesの会場で、大いに遊び、楽しんで欲しい。そして、大人になった時にも、自然と一緒に遊んだ感覚を忘れずに、自然や人、ものに対して思いやりをもって接することができる人になって欲しい。そんな思いを込めて、キッズエリアを設けています。竹や木の枝など自然のものでできた遊具や装飾がやさしい、家族みんなが安心して楽しめる、笑顔あふれるエリアとなりました。

タイムテーブル

MC : comugi

9:30~	「オーガニックフードについて」	南兵庫命前木幸一 (ap bank fes オーガニックフードコーディネーター/アースガーデン) 小林和彦(きらり水園村) 豊増洋右 (ap bank)
17日(土)	11:00~	高橋東雄(園芸家/環境教育家)
14:15頃~	「サステイナブルなお金の使い方」	田中優(未来バンク理事長/ap bank 監事)
9:30~	「フェスからはじめる 女子アウトドアの(深遠なる?)世界」	滝沢守生 (eco-reso camp よるず相談所) 榎野智子 (eco-reso camp よるず相談所) 小澤由紀子(ザ・ノース・フェイス)
18日(日)	11:00~	鈴木雄二(雑貨店「ぐらする一つ」) 松本芳美(雑貨店「クラフトリンク 南風」) 藤岡至美(雑貨店「SlowWaterCafe」)
14:05頃~	「身近な自然観察のおもしろさ」	志村智子(日本自然保護協会)
9:30~	「ごみについて」	野崎優 (ap bank fes ごみ対策総管理/レコテック) 木村祥子 (ap bank)
19日(月・祝)	11:00~	藤健司 (パタゴニア日本支社、コンサベーション・アライアンスジャパン/理事)
14:15頃~	「竹からはじまる地域活性化」	池田親生(合同会社ちかげん共同代表)

(敬称略)



vege-reso project
やさしい成長記録
70th day
オクラの花です。
キレイですね!

エコレゾキャンプ

eco-reso camp

ap bank fes '10のeco-reso campでは、一日およそ1,200人の方がキャンプに参加しました。朝はヨガとラジオ体操から始まり、昼間はライブを見に行ったり、キャンプサイトでワークショップをしたり。夜はバーに集って仲間と語り合ったり、夜の昆虫観察に参加したり、星を見ながらスペシャルライブを堪能したり。緑が広がる心地よい空間で、自然を身近に感じながら暮らす体験を通じて、朝から夜まで一日中ap bank fesを楽しんでいただけました。

また、キャンプサイトバー限定で、ap bank fesで初めての瓶のままのビール提供にチャレンジしました。これは、キリン ハートランドビールの「リターナブル瓶」のシステム(※)を利用したリユースの取り組みのひとつです。通常、安全面を考慮して音楽イベントでは瓶の使用は敬遠されてきましたが、今回あえて試み、キャンプ参加者や出店者の協力のもとで無事成功させることができました。牛乳瓶など、昔からわたしたちの普段の生活のなかでも実践されてきた取り組みでもあります。

※ハートランドビールの瓶は、使用後販売店に返却するとその空瓶は洗浄され、再びビール瓶として使用されます。ラベルが瓶に直接エンボス加工され、紙ラベルも付いていない為、ごみも出ません。



みんなで朝ヨガ



キャンプサイトでワークショップ

kurkku village

kurkku villageは今回初登場のエリアです。芝生が広がる他のエリアとは対照的な、森のなかの木陰が心地よいエリアをつくりました。ap bankがコンセプトプロデュースする「快適で環境にもよい未来に向けた暮らし」を実践する場として誕生したkurkkuが展開しているさまざまなプロジェクト——飲食店やプレオーガニックコットンプログラム、セレクト雑貨を扱うオンラインショップのなど——を一同に集め、「village」の名の通り、私たちの「衣/食/住」にまつわる多様な店舗が並び、コンセプト的なエリアとなりました。



森のなかのレストラン



koti market

koti marketでは、環境にやさしい雑貨やオーガニックフードの販売、芝生の上でゆったりと音楽を楽しむkoti market liveなどで賑わうほか、ハンモックでリラックスしたり、火照った体をミストシャワーで潤したり、太陽光を利用したバルーンで遊んだり、思いおもいの過ごし方でイベントを楽しむことができます。ゆっくりと過ぎる時間の流れの中で、丘を吹き抜ける風の気持ちよさや、芝生の青さ、太陽の力強さに気づくかもしれません。思わず靴を脱ぎ捨てれば、足の裏でしっかりと大地を感じることもできるはず。ライブで盛り上がるだけではなく、こうしてkoti marketで自然を感じながら過ごす時間もap bank fesの楽しみ方のひとつです。



大人気ハンモック!



ゆったりくつろぎながら楽しめるkoti market live

前夜祭 eco-reso+(plus)

2010.7.16 fri

ap bank fesは、メインのライブ以外にも、トークショーやワークショップ、ミニライブなど、さまざまなエリアでイベントを開催していますが、本番3日間は多くの来場者で混雑するうえ、ライブを楽しみながらでは、広大なエリアすべてをゆっくりと見て回る時間をとるのはなかなか難しいと言えます。そこで、会場内のさまざまな取り組みをじっくりと見ていただきたいという思いから、ライブエリア以外のすべてのエリアをオープンして、前夜祭eco-reso+(plus)を開催しています。今回は、およそ4,000人の方々にお願いいただき、ライブだけではなくap bank fesならではのコンテンツや取り組みを楽しんでいただきました。



アフターパーティー after party

最終日のメインステージ終了後、koti marketエリアにて、LOVE CHECK presents「Save the Children Night」というスペシャルafter partyを行いました。koti market liveのミニステージではギターに小倉博和、キーボードに小林武史を迎えたMy Little Loverのスペシャルライブ。芝生の丘には、出演アーティストや来場者による子どもたちへのメッセージを書き込んだ1,000本を超えるキャンドルの灯によって、素敵なメッセージが浮かび上がりました。



vege-reso project
やさしい成長記録
80th day
小さい実が
つきはじめました



2ステージ制

6回目となったap bank fes '10の新しい取り組みのひとつに2ステージ制があります。Bank BandとGreat Artistsとの競演が繰り広げられるAステージと、バンド・アーティストが演奏するBステージの2つのステージでライブを交互に展開する、新たなライブスタイルです。

これは、ap bank fes '10の開催のきっかけとなった、「若手アーティスト、特にバンド・アーティストとのレゾナンス」を実現するために考え出されたものです。ステージを2つ設置することによって転換がスムーズに行われ、多くのアーティストやバンドのライブパフォーマンスを待ち時間なく次々と展開することが可能となり、たっぷり音楽を楽しんでいただけました。

また今回は、2ステージ制に伴い、これまであった客席エリアのブロック指定を廃止しました。さらにファミリーゾーン以外の2つのゾーン(立ち見ゾーンとゆったりゾーン)を来場者は自由に行き来でき、前方で盛り上がり後方でゆったりと過ごしたり、自分に合った楽しみ方で、ap bank fes '10のステージを楽しんでいただけるようになりました。

2つのステージと観客が一体となって、新たなap bank fesのライブステージを創り上げました。

FOH緑化

ap bank fes '10では、ライブパフォーマンスに欠かせないFOH(フロント・オブ・ハウス=音響、照明、収録、映像設備が入った建物)を緑化しました。来場者にとって視界を遮る邪魔なものではなく、ちょっと素敵なものにして親しんでいただけたら、との思いから、前回ライブステージに彩りを添えた壁面緑化技術をこのFOHに取り入れることにしたのです。

ライブエリアの中央に立つ鮮やかな緑色をした四角のオブジェは、大型化によって与えてしまう圧迫感を緩和し、また、植物による蒸散作用が周辺温度を下げ、来場者やFOH内で働くスタッフの暑さ対策としても大きく役立ちました。さらに、規制退場時の演出としてライブ終了後にFOHをライトアップし、退場を待つ来場者に楽しんでいただきました。

音響や照明などの大事な機材を扱うFOHを、水を必要とする生きた植物で装飾するという、相反する要素を共存させるために、ステージスタッフや緑化スタッフなどさまざまなセクションに協力していただき、今回のライブエリアの空間演出が実現しました。

また、生きた植物によって生み出される心地よい空間を、多くの来場者やアーティストに身近に感じていただくために、ステージ裏のアーティストエリアやトークステージの装飾にも採用しました。

前回に引き続き、東邦レオ株式会社によって緑化施工およびイベント開始から終了までの徹底した植物管理が行われ、イベント使用後の植物は、一旦もとの植物生産農場へ戻り十分にメンテナンスされた後、ふたたび他の場所の壁面緑化に使用されています。

大道芸人

足長の巨人やビエロ、全身真っ白の人、緑の妖精、巨大な目玉人間など……会場内のあちこちで、風変わりな大道芸人達に出会えました。彼らが登場するだけで会場が非日常的な空間に早変わり。彼らのパフォーマンスに、来場者の顔からも思わず笑みがこぼれました。退屈してしまいがちな入場列やライブの合間にも来場者を楽しませながら会場を歩く一方、ユーモアあるパフォーマンスで来場者に自発的なマナー改善を促すなど、無機質な看板のマナー説明やスタッフによる厳しいルール違反の取り締まりだけではなく、もっと効果的でちょっと場を和ませるようなスタイルで、周りの人への思いやりや、フェスを楽しむためのルール・マナーに関するメッセージを伝える存在として活躍しました。



イベントに不可欠なものも、できるだけ環境に負荷のない形で。

スタッフ自身も使用するものも、環境にやさしいものを取り入れ、イベント中に着用しているスタッフTシャツは、すべてオーガニックコットン素材のものを使用しました(一部patagoniaからご提供いただきました)。また、リストバンドには、素材に生分解性プラスチックを採用しました。例えば濡りにどこかに落としても、分解され土に還るので長い目でみてもごみになりません。また、焼却した場合にも熱量が少ないため焼却炉を傷めず、大気汚染の原因となる有害物質を出さないとされています。



エネルギー

ap bank fes '10は、1日に27,000人もの方が来場し、ライブエリアの他に、オーガニックフードエリアやキッズエリア、キャンプサイト、そして今回初登場のkurkku villageなどのさまざまなエリアをつま恋の広大な敷地内で展開しています。このような大規模なイベントを運営するためには、ライブでの音響、照明、映像など、またフードエリアの店舗やワークショップ運営など、非常に多くのエネルギー(電力)が必要になります。エネルギーの消費量を必要最低限に抑える工夫をするのはもちろん、燃焼時にCO₂を多く排出する石油などの化石燃料の代わりに、代替燃料や再生可能エネルギーといった環境にやさしいエネルギーを選んで使用したり、新しい技術を導入するなど、できるだけ環境負荷の少ないイベント制作に取り組んでいます。

グリーン電力

2005年の初開催より、ap bank fesではライブエリアで使用する電力にグリーン電力を採用しています。

ap bank fes '10では、会場となるヤマハリゾートつま恋が、地元掛川市の推進する「エネルギーの地産地消仕組みづくり事業」に協賛し、掛川市内の一般住宅(約100世帯)に設置された家庭用太陽光パネルで発電される電気をグリーン電力証書(※)として購入。つま恋での音楽イベントで必要とされる電力にグリーン電力を活用しています。これに伴い、ap bank fes '10のライブエリアで使用されたおよそ12,000kWhの電力は、このグリーン電力によってまかなわれたものとみなされます。

つま恋では、年間約16,000kWhの電力量のグリーン電力を使用することで、約7.7tのCO₂削減効果が見込まれています。



※グリーン電力証書システムとは…

風力や太陽光、水力、バイオマスなどの自然エネルギーによって発電された電力は、電力そのものの価値に加えて、省エネルギーやCO₂排出量削減などの環境付加価値を持ちます。この環境付加価値分をグリーン電力証書として証書化し、取引を可能にしたものがグリーン電力証書システムです。自然エネルギーを直接利用出来ない企業やイベントなどでも、使用分の電力をグリーン電力証書を購入することによって、グリーン電力を間接的に購入することが可能になり、CO₂削減などの環境保全に取り組めるほか、自然エネルギーの促進にも貢献することができます。

LED照明

ライブステージで使用する照明に、電力消費を画的に抑えることができるLED(※)照明を一部採用しました。これにより、今回2つに増えたステージによって増えてしまう電力消費を、昨年並みに抑えることができました。環境にもやさしく、ステージを鮮やかに彩る照明がap bank fes '10のステージを盛り上げました。



※LEDとは…

発光ダイオードともいい、電気を流すと発光する半導体のこと。従来の光源に比べて寿命は長く、消費電力も小さいため、次世代の光源としてその特徴を活かしたさまざまな使い方が検討されています。



バイオディーゼル燃料

オーガニックフードエリアやキッズエリア、キャンプエリアなど、ライブエリア以外のすべてのエリアで使用するエネルギーを発電する発電機の燃料には、軽油の代わりに、バイオディーゼル燃料(BDF=Bio Diesel Fuel ※)を使用しています。

ap bank fes '10では、エリアが増えたこともあり、前回よりも1,300ℓ多い、およそ8,900ℓのBDFを使用しました。BDFは化石燃料の枯渇に伴う代替燃料の必要性から、環境への負荷が少ない再生可能エネルギーとして注目され、需要が伸びています。最近では、ごみの収集車やバスなどの公共交通機関でも使用されています。その一方で、植物を原料としているために懸念される、穀物の供給不足からくる食料問題や森林破壊などの問題点も見逃せません。ap bank fesでは、そのような背景を考慮し、てんぷら油などの植物性廃食油をリサイクルして作られたBDFを使用しています。また、ap bank fes '10の飲食店から出た廃食油も捨てずに回収し、BDFの調達先でもある株式会社セベックによって、BDFへとリサイクルされました。(P14)



※バイオディーゼル燃料とは…

菜種油・大豆油・コーン油、またそれらの廃食油など植物由来の油から精製された代替燃料。石油等の化石燃料は燃焼する際にCO₂を排出しますが、BDFは、原料となる植物が成長過程の光合成によって大気中のCO₂を吸収しているため、燃焼させても元々地球上に存在した以上のCO₂は発生しない(=カーボンニュートラル)と考えられています。

日本では主に、廃食油などごみとして捨ててしまうものをリサイクルしてBDF燃料を精製する取り組みが、さまざまな企業や自治体によって進められています。また、食用の植物ではなく、非食用の植物からBDFを精製する取り組みも進んでいます。



ap bank fes '10 収支報告 (2010年11月末現在)

(単位:円/消費税込)

チケット収入	¥ 9,000/1日券、1日ファミリー券	7月17日(土)/18日(日)/19日(月・祝) 合計:80313枚	¥722,817,000
	¥27,000/3日券、3日ファミリー券	合計:280枚	¥7,560,000
	¥ 5,000/エコレゾキャンプ券 エコレゾキャンプファミリー券	合計:680枚	¥3,400,000
	¥32,000/3日券+エコレゾキャンプ券 3日券+エコレゾキャンプファミリー券	合計:720枚	¥23,040,000
	¥ 4,000/1日駐車券 ¥11,000/4日通し駐車券 ¥ 4,500/1日駐車券(当日)	1日券(7月16(金)、17日(土)、18日(日)、19日(月・祝))/4日通し券 合計:8387枚	¥35,401,500
その他収入	物販	オフィシャルグッズ(8月31日までの通信販売含む)	¥285,038,000
	フードエリア収入	フードエリア出店料、販売ロイヤリティなど	¥42,655,337
	協力金	賛同企業 (アサヒビール株式会社、キリンビール株式会社、佐川急便株式会社、サントリー、JR東海)※50音順	¥10,200,000

収入合計 ¥1,130,111,837

イベント制作費	ライブエリア	ステージセット、舞台監督、大道具、音響、照明、映像、特効、運搬など	¥225,882,196
		楽器テクニシャン人件費、楽器レンタル費、調律など	¥13,708,984
	フードエリア	テント、看板、運搬、音響、照明費など	¥76,684,461
		出店管理経費、ワークショップ制作費、eco-reso camp運営費など	¥26,660,395
	環境対策費	こみ対策費、エネルギー対策費、トイレ管理費など	¥14,252,221
現地制作費		会場費、会場設営費(プレハブ・仮設トイレ・看板など)、舞台設営費、会場外設営費、人件費など	¥103,946,273
		移動費、車両費、シャトルバス、駐車場運営・使用料など	¥56,673,993
		食事代、ケータリング代など	¥23,296,494
		アルバイト・警備員費など	¥63,355,084
		著作権使用料、運営雑費、花火、制作協力費など	¥16,805,406
出演アーティスト経費		出演者・ヘアメイク・スタイリストのギャランティー・交通費など	¥45,124,365
移動宿泊費		宿泊(出演者・スタッフ・ボランティア・関係者など)	¥50,166,835
		移動(スタッフ・ボランティア・関係者、レンタカー、市内移動費など)	¥8,612,921
イベント運営費		チケット販売手数料、チケットバンド・グッズ・STAFF Tシャツ制作費など	¥202,109,142
		中止保険、リハーサルスタジオ代	¥41,876,363
		制作物広報費(オフィシャルサイト制作費、ラジオ番組制作費、オフィシャルカメラマン撮影費など)	¥14,784,100
		諸経費(消耗品費、雑費など)	¥3,976,988

支出合計 ¥987,916,220

収支 ¥142,195,617

※ 賛同企業とは、ap bank fes '10の趣旨に賛同いただき、イベント制作にご協力いただいた企業です。
 ※ 企画・制作を担当した鳥籠舎スタッフ分の経費については、移動交通費・宿泊費等、実費のみを経費計上しております。
 ※ 上記収支は、ap bankの活動資金、環境をはじめとするさまざまなプロジェクトの支援や推進のための資金に充当されます。

公演実施概要

公演名	ap bank fes '10(エービーバンク・フェス・イチゼロ)
日程	2010年7月17日(土)、18日(日)、19日(月・祝)
会場	ヤマハリゾート つま恋 〒436-0011 静岡県掛川市清水2000番地
場所	つま恋敷地内 ライブエリア/多目的広場/オーガニックフードエリア/グリーンスポーツ広場、第2多目的広場/その他

時間	開園 08:00	つま恋南ゲート
	開場 09:00	ライブエリア/オーガニックフードエリア
	開演 12:00	
	終演 19:00	
	閉場 21:00	ライブエリア/オーガニックフードエリア
	閉園 22:00	つま恋南ゲート

出演アーティスト	7月17日(土)	7月18日(日)	7月19日(月・祝)
(出演順)	Bank Band with Great Artists		
	阿部真央 FUNKY MONKEY BABYS Cocco 横山剣	Salyu KAN ムッシュかまやつ	スキマスイッチ PUFFY RHYMESTER 久保田利伸
	Band Act		
(出演順)	世界の終わり MONGOL800 Mr.Children レミオロメン	lego big mori GOING UNDER GROUND Mr.Children フラワーカンパニーズ 真心ブラザーズ	THE BAWDIES Dragon Ash Mr.Children エレファントカシマシ

チケット	3日券(立ち見ゾーン・ゆったりゾーン、ブロック指定なし)	3日ファミリー券(ファミリーゾーン)	各 ¥27,000 税込
	1日券(立ち見ゾーン・ゆったりゾーン、ブロック指定なし)	1日ファミリー券(ファミリーゾーン)	各 ¥ 9,000 税込
	エコレゾキャンプ券	エコレゾキャンプファミリー券	各 ¥ 5,000 税込

前夜祭 eco-reso+ (plus)	開催日時	7月16日(金)13:00 開場 ~ 21:00 閉場
	料金	入場無料(ただし、つま恋の入園料については下記のとおり) *7月17、18、19日のいずれかのap bank fes '10チケット(3日券を含む)の提示でつま恋の入園無料 *ap bank fes '10チケットをお持ちでない方は、つま恋入園料(大人1,000円、小人500円、幼児無料)が必要 *つま恋は17:00以降は入園無料 *オーガニックフードエリアkoti, piha, koti market, kurkku village, キッズエリアpuu へのオープン

eco-reso camp	開催期間	7月16日(金)13:00 ~ 7月19日(月・祝)14:00(最終日 19日の終演後の宿泊はなし)
	場所	つま恋敷地内 ゴルフショートコース
	料金	上記「チケット」参照

実績	動員数	本番日:約81,000人(各日 約27,000人 × 3日間) 前夜祭:約4,000人
----	-----	--

主催	ap bank
企画・制作	ap bank/OORONG-SHA
賛同 (50音順)	アサヒビール株式会社/株式会社エフエム東京(TOKYO FM)/キリンビール株式会社/コールマン・ジャパン/コンサベーション・アライアンス・ジャパン/ 佐川急便株式会社/THE NORTH FACE/サントリー/JR東海/静岡新聞社/静岡放送(SBS)/大日本印刷株式会社/TOWER RECORDS/ 中央不動産株式会社/東邦レオ株式会社/トヨタ自動車株式会社/株式会社バシフィックネット/パタゴニア/ヤマハ株式会社

環境対策協力 (50音順)	A SEED JAPAN/株式会社イーシーセンター/市栄産業株式会社/株式会社市川商店/株式会社ウインローダー/ 株式会社エコネコル/株式会社エンヴァイロテック/株式会社グリーンシンク/株式会社セベック/帯人株式会社/ 有限会社ひがしぐま/レコテック株式会社
------------------	---

協力 運営	掛川市/つま恋 SUNDAY FOLK PROMOTION
----------	----------------------------------

URL	http://www.eco-reso.jp/fes10
-----	------------------------------



おわりに

改めて、ap bank fes '10で私たちが意識して進めてきたことが何であったかを振り返ってみるとそれはやっぱり「伝える」「繋がる」ということなのだと思います。

ap bank fesは基本的には野外音楽イベントなので

音楽を通じて何か伝わっていく、繋がっていくことがその中心にあるのですが

実はそのまわりにも、何かを「伝え」たり、何かと「繋がる」ためのいろいろな要素が隠れています。

携わっている私たちスタッフができることは本当はまだたくさんあって

私たちがそれらに気がついて、掘り起こして形にし、会場だけではなくいろいろなことにちりばめていく

そうすることによって、来場される皆さんやこのイベントに関わっていただいた方々に

「伝わる」こと、「繋がる」ことの可能性やメッセージを残すことが出来る、そう思っています。

必要なことだと思って諦めていたストレスが、実は捉え方によってはストレスではないのかもしれない、とか

今まで気にも留めてなかったことに、実は気持ち良さを感じることができるかもしれない、とか

地球や自分、隣の人との環境をより良くしていくためにできることは

本当はもっともっと簡単なことなのかもしれません。

そんなことをみんなで実感していくことが

私たちが携わるこのイベントにとって必要なことなのではないかと思っています。

ap bank fes '10が終わって、日々の生活に戻ったとき

たさんの何か「伝わって」いたり「繋がって」いたらとても嬉しいです。

私たちはさらに、ap bank fesに参加していただいた皆さんのキモチ、志とともに、

その実感を「場」や「モノ」、「カタチ」にしていきたいと考えています。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

また、お会いしましょう。

2010年12月

ap bank fes '10 事務局

